

第17回あいち境界シンポジウム 報告

今年で第17回を迎えた「あいち境界シンポジウム」が、平成24年2月3日(金)名古屋市市中村区のウインクあいち(愛知県産業労働センター)大ホールに於いて開催された。今回のシンポジウムは、昨年3月に発生した東日本大震災をテーマに、「東日本大震災 その時とこれから ~土地家屋調査士による復興支援~」と題して、宮城・岩手・福島の東北3県会長にそれぞれご講演をいただき、また、後半はパネルディスカッションで貴重なご意見・ご提言をお聞きしようとの趣旨で開催された。会場は、官公署の職員や土地家屋調査士の他、一般の方々も含めて約500名という多数の来場者であった。



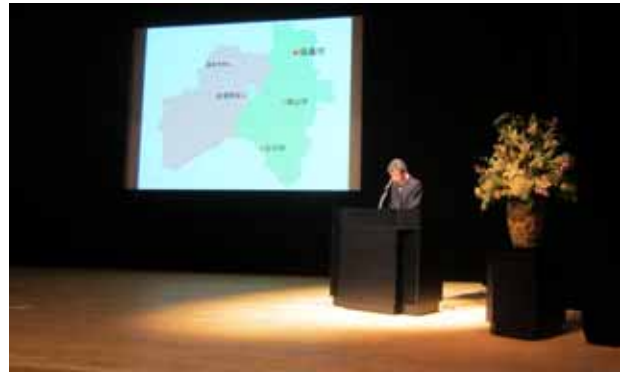
講演する宮城会 鈴木 修 会長

前半の講演で最初に登壇した宮城県土地家屋調査士会鈴木修会長は、被災者にしか語れない経験を被災地以外の方々に伝えていく重要性を「被災者責任」という言葉を使って報告された。



講演する岩手会 菅原 唯夫 会長

次に登壇した岩手県土地家屋調査士会菅原唯夫会長は、被災地での無料相談会や土地の被災状況実態調査等、現地の土地家屋調査士が行っている支援活動について報告された。



講演する福島会 五十嵐 欽哉 会長

最後に登壇した福島県土地家屋調査士会五十嵐欽哉会長は、福島第一原発の事故によって、先の見えない不安な生活を強いられている福島の方々の切実な心情を報告された。



パネルディスカッションの様子

コーディネーターの赤川美咲会員(左)と3県会長の皆さん

後半は3県の会長にパネリストとなっていていただき、愛知会の赤川美咲会員をコーディネーターにパネルディスカッションが行われた。その時被災地では何が起り何が問題となったのか、そして今後我々はどう行動すべきなのか。大震災を経験された被災者の立場で、3県の会長は我々に多くのことを訴えかけてくださった。

なお、このシンポジウムの講演録が来年度の「地図読み人」として発行される予定です。皆様ぜひご一読ください。

最後になりましたが、震災でお亡くなりになられた方々に心から哀悼の意をささげるとともに、被災された皆様に心からお見舞いを申し上げます。

(広報部理事 齊藤直人)